

第 100 回助産師国家試験分析報告

第 100 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、現在社会的に広く認知されている「助産師の声明（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師のコアコンピテンシー（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師教育のミニマム・リクワイアメンツ（公益社団法人全国助産師教育協議会）」、「助産師の卒業時の到達目標（厚生労働省）」を「助産師国家試験出題基準」に照合させて用いた。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ①設問と解答肢の検討
- ②知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス
- ③助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 100 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午前問題 13 と 52 を不適切問題とし、午後問題 28 を課題のある問題と判断した。詳細については表 1 を参照されたい。

II. 知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス

知識・技術・態度別からみた出題内容のバランスについては「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた国家試験出題数」（表 2）、および「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた出題テーマ」（表 3）を参照されたい。

助産師の卒業時の到達目標は、大きく以下の 9 項目に分類される。

- 1) 母子の命の尊重
- 2) 妊娠期の診断とケア
- 3) 分べん期の診断とケア
- 4) 産じょく期の診断とケア
- 5) 出産・育児期の家族ケア
- 6) 地域母子保健におけるケア
- 7) 助産業務管理
- 8) ライフステージ各期の性と生殖のケア（マタニティステージを除く）
- 9) 助産師としてのアイデンティティ形成

今年度は、知識と技術・態度の割合は、知識 80 問（72.7%）、技術・態度 30 問（27.3%）と知識に関する問題が多く、技術・態度に関する問題は第 99 回（32.7%）に比べて低かった。また、2) 妊娠期の診断とケアに関する問題は、24 問（知識 14 問、技術・態度 10 問）で全体の 21.8%の出題率であり、第 99 回（28.2%）と比べて少なく、第 98 回（14.7%）より多かった。3) 分べん期の診断とケアに関する問題は、27 問（知識 20 問、技術・態度 7 問）で全体の 24.5%の出題率であり、昨年（第 99 回）の 19.1%に比べて増加していた。4) 産じょく期の診断とケアに関する問題は、26 問(知

識 21 問、技術・態度 5 問)で全体の 23.6%の出題率であり、昨年の 23.7%と同様であった。その中では、新生児の診断とケアの出題数が増加していた。6) 地域母子保健におけるケアの中の災害時の母子への支援に関する問題は、第 99 回は出題されていなかったが、今年度は第 98 回と同様に 1 問出題されていた。7) 助産業務管理に関する問題は、10 問(知識 8 問、技術・態度 2 問)で全体の 9.1%の出題率であり、第 99 回(10.9%)、第 98 回(8.2%)とほぼ同率であった。

過去 3 年間(本年含む)において、9) 助産師としてのアイデンティティ形成の範囲からは出題されていない。ただし、この内容はすべてに関連し出題が難しい問題であるため、出題バランスが悪いとは言い切れない。それ以外の項目は、バランスよく出題されている。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否か

助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた国家試験出題数(表 2)より、過去 3 年間では、第 100 回は知識を問う問題 72.7%(第 99 回 67.3%、第 98 回 68.2%)、技術・態度を問う問題 27.3%(第 99 回 32.7%、第 98 回 31.8%)であった。助産師は知識、技術・態度を含めた実践能力が求められる専門職であるため、今回の出題割合は適切と考える。8) ライフステージ各期の性と生殖のケアについても思春期から中高年まで出題されていた。さらに、院内助産、病院・助産院を含めた助産業務管理、院内感染予防、性同一性障害に悩む女性への支援、月経障害既往を持つ女性への支援に関する問題など、現在の母子保健医療の現状に合わせた問題も出題されていた。

総括

1. 出題問題の検討については、2 問を不適切問題、1 問を課題のある問題と判断した。
2. 助産師の卒業時の到達目標に沿った問題が、知識、技術・態度別にバランスよく出題されていた。
3. 現在のハイリスク妊婦の増加に伴い、妊娠期・分娩期・産褥期(新生児期を含む)の診断とケアの設問においては、異常の知識を問う設問や今日の周産期課題とニーズに合う内容が増加していた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。